

47 被服材料の通気性について

椋山女学園大学 名倉 光雄

被服材料の通気性は被服の換気性と共に、その保温性・防暑性などに影響する重要な性能であるが、その表示法・測定法が一定していない。本実験はアスピレーターにより吸引する空気の容量を、ガスマーターで、減圧量を傾斜マンオメーターで精密に測定して、通気度を検討した。

パラフィン紙に一定面積の小孔を増加した場合、その合計面積と通気度との関係曲線は、その厚さが大なる程傾斜が小さいが、減圧量が水柱(mm)で約0.5及び5の点に変曲点がある折線である。

二枚以上の被服材料を重ねる場合の通気度は、それらが互に接触している場合よりも、約1mm間隙のある場合がより大である。即ち被服の重ね着に於て、ゆとりのある被服の方が保温的であると同時に保健的である。

一般に通気度は吸湿により減少するが、糊付プレス仕上げされたものは逆に増加する場合がある。濡れた場合は全部が減少する。

被服材料を含水率と通気度の関係から分類すると、防暑用は含水率と通気度が共に大きく、防寒用は含水率が大きく通気度が小さい。一般には含水率と通気度が共に中程度のものが多く実用的である。